

北海道IR社会的影響対策 への意見

～ギャンブル依存対策を中心に～

稲村 厚

ギャンブル依存対策 ー北海道独自の取り組みに向けてー

- カジノに関する対策
 - ★ヘルプラインの創設（既存の依存対策との連動）
 - ★広報・啓発活動
- 既存のギャンブル依存対策
 - ★問題の段階に応じたきめ細かい対策
（依存問題を生活の問題・不適応としてとらえる考え方）

★ヘルプラインの創設

- 海外のカジノヘルプラインの検討
- 既存のヘルプライン（RSN等）の調査及び連携可能性の検討

★広報・啓発活動

- カジノをタブー視しないこと
タブー視すると事実が隠され問題が深刻化してから発覚する
- 単に「ギャンブルをしない」啓発ではなく、余暇の充実についての啓発及びインフラ整備の視点を持つ
- 「上手なお金・時間の使い方」の啓発を！
- 困りごとを気軽に相談できる地域の整備
- 広報は、あらゆるメディアを通じて徹底的に行うこと

★問題の段階に応じたきめ細かい対策

- ギャンブル依存問題の「段階」とは何か？
- ギャンブル依存に関する基本的な考え方
- アセスメントの必要性
- 本人中心の支援体制
- 具体的な提案（北海道モデルに向けて）

行政相談からの支援事例

- 相談のみで解決
- 相談から夫婦間調整において解決
- 相談から継続相談・家族調整・就労支援・債務整理等を経て、在宅支援で解決（地域のネットワークを活用）
- 施設利用において解決（在宅ではストレス軽減にならないため）

ギャンブル依存問題の「段階」とは何か

- 経済面を中心とした生活面の問題である
←体が悪くなるわけではない（アルコール・薬物）
- 経済面は相対的な問題であるため、個別的なアセスメントが必要になる
- 本人及び生計を共にする家族等の家計並びに生活状況（背景）をアセスメントする
- このアセスメントを無視した一律的な対応は、かえって本人と家族の関係性を悪化させ、家族離散の結果を招く恐れがある

ギャンブル依存に関する基本的な考え方

- 自己肯定感の喪失の問題を重視する必要がある
- やめられないのにはそれぞれ理由（外部的要因）がある
- やめたい気持ちがあれば、外部的要因を取り除くことで問題は沈静化する
- 外部的要因には、同居の家族・職場・支援者に存在する
- ギャンブルそのものを問題とするより、環境要因を改善する手法が、本人が受け入れ、取り組みやすい
（ギャンブル現象にとらわれずその人の背景に目を向ける）

行政への期待

- 相談機関における、アセスメント機能を高める
- 支援における、コーディネーター（CW）を配置する
- 金銭の預かり管理サービスを可能にする
- 生活地域における支援体制（地域ネットワーク）を充実させる

10年後を見据えた対策として

- 教育について
 - 健康的なお金の使い方
 - 健康的な余暇の使い方
- 文化について
 - 地域文化を育てる
 - 自然・芸術・スポーツ・教養・・・

参考文献

- 「生活困窮者自立支援も『静岡方式』で行こう！！2～相互扶助の社会をつくる」 2017年 津富宏・NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡編著 (株)クリエイツかもがわ
- 「ズレてる支援！—知的障害／自閉の人たちの自立生活と重度訪問介護の対象拡大」 2015年 寺本晃久・阿部耕典・末永弘・岩橋誠治著 (株)生活書院